

## 汚泥乾燥施設の運転状況について

## 1. はじめに

令和2年9月より稼働している汚泥乾燥施設では、隣接するごみ焼却施設から供給される蒸気を利用して汚泥の乾燥が行われています。

汚泥の減量化と熱資源の循環を目的とし、約80パーセントの水を含んだ汚泥が乾燥によって含水率は約40パーセントとなり、重量は約3分の1に減量されます。

これまで年間約6,800トンの脱水汚泥を全て市外の民間事業者へ搬出し、肥料やセメントの原料として再資源化を図っておりましたが、汚泥量が減少することで汚泥の運搬や再資源化委託など汚泥処理に要する経費は大きく削減しております。

また、汚泥の搬出量が減少することにより運搬に伴うCO<sub>2</sub>発生量も抑制することができ、環境面での効果にも寄与しております。

## 2. 汚泥乾燥施設の運転及び汚泥の搬出状況について

●表1 年度別汚泥含水率及び減容率

年 度	脱水汚泥投入量	脱水汚泥含水率	乾燥機運転時間	乾燥汚泥生成量	乾燥汚泥含水率	汚泥減容化率
令和2年度	3,988 t	81.4%	3,774 h	1,200 t	42.9%	30.1%
令和3年度	3,190 t	80.8%	3,210 h	1,011 t	40.5%	31.7%

注) 令和3年度は9月末までの実績値である。

●表2 年度別汚泥搬出状況

年 度	汚泥性状	場内搬出		場外(市外)搬出		合計
		乾燥施設	焼却施設	肥料化	セメント原料化	
令和元年度	脱水			5,651 t	1,207 t	6,858 t
令和2年度	脱水	3,988 t		2,432 t	358 t	6,778 t
	乾燥		640 t	560 t		1,200 t
令和3年度	脱水	3,190 t				3,190 t
	乾燥		422 t	589 t		1,011 t

注) 令和3年度は9月末までの実績値である。

●表3 年度別汚泥処理費状況

年 度	肥料化・3社		セメント原料化・2社		合計	
	処理量	再資源化委託費	処理量	再資源化委託費	処理量	再資源化委託費
令和元年度	5,651 t	59,049千円	1,207 t	12,358千円	6,858 t	71,407千円
令和2年度	2,992 t	37,519千円	358 t	4,273千円	3,350 t	41,792千円
令和3年度	589 t	8,589千円			589 t	8,589千円

注) 令和3年度は9月末までの実績値である。

再資源化委託費には汚泥運搬経費は含まれていない。